

国際油濁会議について

(独)海上災害防止センター 元防災部長

(財)漁場油濁被害救済基金 漁場油濁対策専門家

佐々木 邦昭

1. 概要

在る日突然、私達の目前で油濁事故が発生した時、この問題に如何に取り組むべきか、これらの事は油濁事故が深刻化した40年程前から常に新しい問題として私達の前に立ちはだかり現在に至っております。

この問題の追究は、一国だけの経験と知恵では不十分であり、国際的に共有されることが必要です。国際油濁会議は、油濁に関心を持つ世界の人々が一堂に会し、予防、防除、過去の教訓、補償、影響等最新の情報、研究成果を定期的に交換する重要な会議で、その成果物は日本を含め世界の油濁対応レベルを向上させるため活用されてきました。

この会議が最初に開催されたのは、米国ニューヨークで38年前 1に遡ります。

国際油濁会議 (International Oil Spill Conference 以後IOSC) と呼称され、以来2年毎に米国内各地で開催され、一昨年2005年にはフロリダ州マイアミで第19回IOSCが盛大に執り行われました。

IOSCでは毎回、世界中から国際機関 (IMO 等) 政府機関 (コーストガード、環境庁等) 石油・海運業界、サルベージ会社、PI 保険、大学研究者、資機材メーカー等の人々2千人以上が集り、旧交を温めつつ、前記の問題について最新の事例、研究成果の報告 (毎回100~300件) と質疑応答を行っていて、今までに発表された報告書は膨大な数になります。

他に伝統のある国際油濁会議として、英国では Interspill が、豪州では Spillcon が行われておりましたが、一昨年の IOSC の席上、以後の国際会議は EU (Interspill)、豪州 (Spillcon)、北米 (IOSC) の順に、3年サイクルで行うことが発表されました。そして、昨年5月に英国ロンドンで Interspill、今年3月は豪州パースで Spillcon の会議名で行われ、来年は米国ジョージア州サバナで IOSC2008 が予定されております。これらの国際会議は今後まだまだ開催されると思われしますので、油濁に関心のある漁業関係の方も一度参加してみても如何でしょうか。

- 1 1967年3月に英国で起きた大型タンカー「トリーキャニオン号」の事故がきっかけとなり、その2年後に米国は初めてのIOSCをニューヨークで米国石油協会 (API)、連邦水質汚染規制協会 (FWPSA) の主催で開催した。この頃、日本では未だ機が熟しておらず、70年代に入り事故が多発した頃から法整備等が進んだ。

各会議のロゴマーク



2. 米国のIOSC2005について

2005年5月15日から5日間、フロリダ州マイアミでNOAA(海洋大気庁)、USCG(沿岸警備隊)等7機関の主催で開催され、50ヶ国から2,000人以上の参加を得て、213件の報告がありました。

演題毎に38のセッションに分かれ、1つのセッションでは4名程が議長の進行の下で20分間の持ち時間でプレゼンテーションを行う、その後聴講者との質疑という方法等がとられました。

これらの中で注目されたものとして

- ・ 沈没船について1890年から2004年の間に沈没し、油の流出の恐れのある船舶8,500隻(75%は第二次世界大戦で沈没)について、その分布(日本周辺にも多数ある)、残油対策等について
- ・ タンカープレステージ号の油濁事故に関して、回収船の活躍、3千mの海底に沈む船体から残油抜き取りの状況、人工衛星による油のモニタリング等があります

又、広大な展示場には防災資機材メーカー等150社が出店し、最新の回収船、装置、オイルフェンス、回収容器等が展示されていました。

- 2 他にAPI(米国石油協会)、IMO(国際海事協会)、EPA(環境保護庁)、IPIECA(国際石油産業環境保護協会)、MMS(地下資源管理局)

写真1 マイアミ港と油回収船
FLORIDA RESPONDER号
ハリケーンによる大規模油濁事故
で活躍している



3 . 英国の INTERSPILL について

2006年3月20日から3日間、英国ロンドンで開催され、71ヶ国から1400名が参加しました。

UK Spill Association(英国油濁協会)、EMSA(ヨーロッパ海上保安庁)等6つの組織が主催し、会議では52件の研究論文の発表がありました。

論文は7つのカテゴリーに分けられていて、従前の同種会議と比し海洋だけでなく内陸部のパイプライン等から河川、湿地帯への流出、ロシア、アフリカ地区で発生した油濁の事例、米国ハリケーンによる流出等が取り上げられている等の特徴がありました。

特に

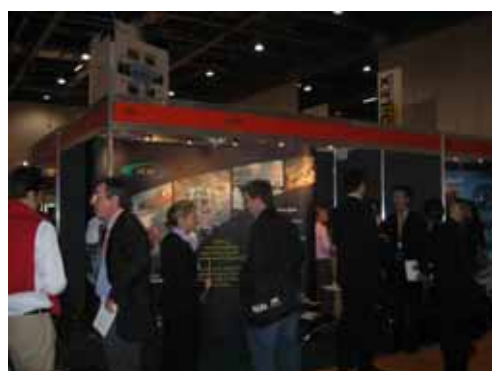
- ・ 世界第2位の産油国ロシアでは、パイプラインからの流出件数が毎年2万件を超えていること
- ・ 米国ではハリケーンKatrinaにより大規模6件、中規模4件、小規模134件の油濁案件が発生し、その中には洋上リグ12基の被災と5基のスクラップが含まれていて、その数字の大きさには驚かされました。論文の詳細に関心のある方はインターネットで検索が出来ます。

隣接する展示場では、各国企業の最新の防災機材と海洋調査資機材(ROV等)の展示、岸壁では回収船等が公開されていました。

写真2 INTERSPILL 会議場



写真3 展示場
資機材メーカー、IMO、油濁基金等
117社出展



4. SPILLCON について

オーストラリアで定期的(2~3年周期)に開催され、本年もその11回目として3月26日から4日間、西オーストラリア州の州都パースで開催されました。本会議は、アジア・太平洋地区を主テーマにAIP、AMSA、AMOSC 2が主催、フリーマントル港と西オーストラリアインフラ整備局、国際海事機関(IMO)、MNZ 3、国際石油産業環境保全連盟(IPIECA)等の協力を受けて実施されています。会議での発表論文や参加者の規模は米国、英国の二つの会議に比べると小さいが、ブラジル、アフリカ、中東を含む400名以上が参加しています。

本会議の特徴として、議題毎に各国、地域からプレゼンテーションが行われています。例えば衛星、航空機からの油汚染監視について、フランス、カナダ、英国、オーストラリアの場合について各々20分間パワーポイントで説明、その後聴衆を交えて討議などでこれら内容の多くは、インターネット SPILLCON2007 で検索すると簡単にダウンロードすることが出来ます 4。

- 3 A P I The Australian Institute of Petroleum Ltd オーストラリア石油協会、
A M S A The Australian Maritime Safety Authority オーストラリア海洋安全局、
A M O S C The Australian Marine Oil Spill Centre Pty Ltd オーストラリア海洋油流出センター
石油会社10社から融資を受け、油濁対応、教育訓練等実施、南太平洋をカバーしている。
- 4 M N Z Maritime New Zealand ニュージーランド海上保安庁



写真4 会議場 Burswood Convention Centre

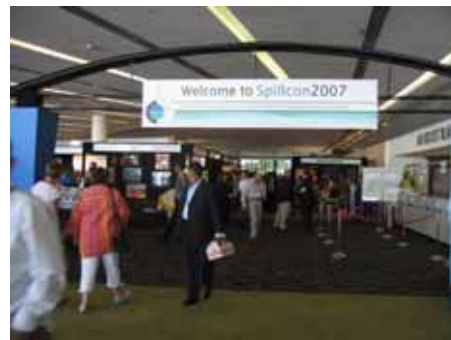


写真5 会場入り口

写真6 プレゼンテーションの情景



5 表 は、SPILLCON で検索した例で、会議当日 3 月 3 0 日 8 時 4 5 分から行われた衛星・航空監視のについて 4 名の発表者によるフランス、カナダ、英国、オーストラリアの事例を紹介していて、その内容は自由にダウンロードできる。

0845 - 1015	AERIAL SURVEILLANCE The French Experience Georges Peigne, CEDRE, France (Download Presentation) The Canadian Experience Louis Armstrong, Transport Canada (Download Presentation) The UK Experience Toby Stone, Maritime and Coastguard Agency (Download Presentation) The Australian Experience Annaliese Caston, Australian Maritime Safety Authority (Download Presentation) Case Studies & Successful Prosecutions/Outcomes
DISCUSSION/QUESTIONS	

5. 所感

日本社会が油濁問題を抱えてからほぼ 30 年の歳月が経ちます。この 30 年間には大小様々な船舶の海難、臨海工場の事故、地震に伴う油濁事故が数多ありました。

その結果被った国家・地球の累積損失は如何程のものなのでしょうか。

事故直後の酷い自然界の損失は、果たして本当に数年で回復を繰り返すことが出来たのでしょうか。その様な油濁の現実に心を動かされ科学的な調査研究をしている人々も多勢おります。しかし、彼らの研究の多くが、関係者に知られることなく埋もれたままになっている場合も少なくありません。その所以は恐らく発表の在り方に在る、即ち「井の中の蛙」的な場所で行って居る様な気がいたします。

国際会議は世界の人々にとって開かれた情報の宝庫であり、この会議の活用について日本全体、また、漁業関係者も関心の度合いを深める一助になればとの思いで本文を寄稿しました。

表

会議名	開催地 (最新の開催)	特徴 主な対象地域	次回開催
I O S C	米国 (2005年マイアミ)	米国国内及び世界を 対象	2008年5月4日 - 8日 SAVANNAH
INTERSPILL	英国、 (2006年ロンドン)	主に、欧州、ロシア、 アフリカ	2009年5月12日 - 14日 仏 MARSEILLE
SPILLCON	豪州 (2007年パース)	主にアジア地区	2010年 豪 MELBOURNE